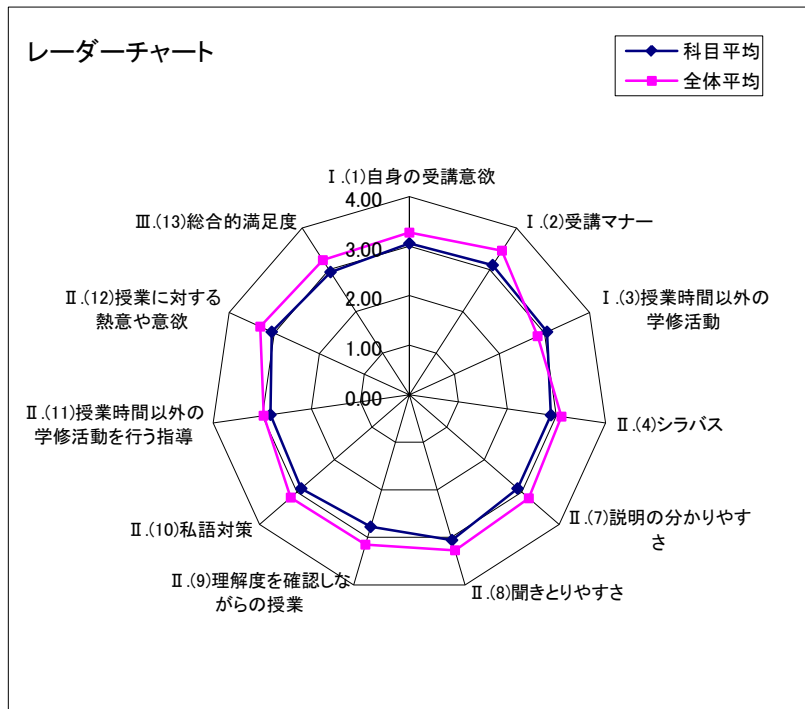
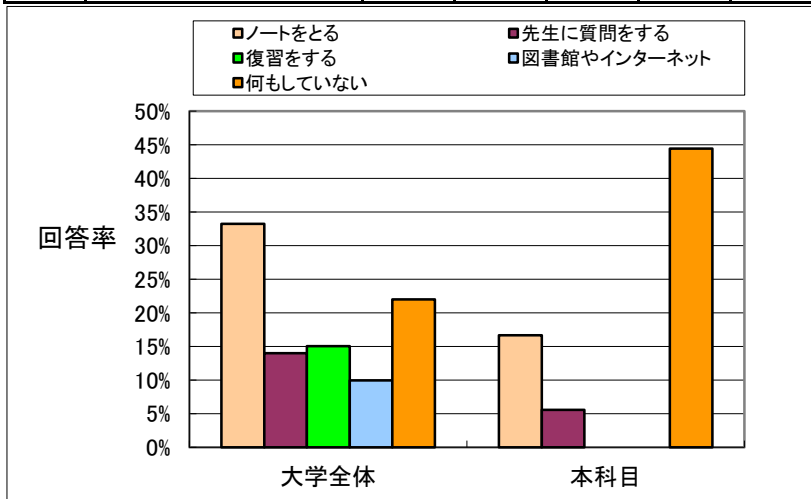


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

＜※複数選択可項目＞	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14) 授業を理解するための工夫	0.17	0.06	0.00	0.00	0.44



	設問No.	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.06	3.27
	I.(2)	3.11	3.46
	I.(3)	3.06	2.85
講義内容・方法	II.(4)	2.89	3.10
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	2.89	3.19
	II.(8)	3.06	3.27
	II.(9)	2.78	3.15
	II.(10)	2.89	3.17
	II.(11)	2.83	2.97
	II.(12)	3.06	3.31
	総合評価	III.(13)	2.94

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.07	3.19
講義内容・方法 II.(4)~(12)	2.91	3.17
総合評価 III.(13)	2.94	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度 前期
時間割番号	4230
科目名	日本語コミュニケーション I
教員名	

①授業計画の達成度について

日本語コミュニケーション I は、①日本語を表記する文字を適切に使うことができる、②日本語の語彙や文の構造を説明できる、③日本語の敬語表現を実践できる、ということを目指して、科目共通のテキストを使用して統一的な授業を行っている。シラバスの順序に従い、小テストを実施して学力を確認しながら進めている。
大学初年次教育の科目として適切であり、掲げている到達目標は標準的なものである。従来の学習の確認の意味も込めて、国語の基礎力を養成するのに適しているといえる。テキストは、専門的な観点から編纂され、国語能力として必要な領域をすべてカバーしたものを使用しており、難易度も適切であり無理がないといえる。

教室は比較的小さな教室であるから、普通の声で十分聞き取れる広さである。はきはきと明瞭に話すので聞き取りにくいということは全然ない。再履修を含めて24名の受講者がいた。人数的に対応できないではないが、もう少し少ない方が私語対策をしやすいように思う。テキストの問題を学生に解答させながら進めるので、理解しているか否かはすぐにわかる。教室を巡回しながら課題の文章を書いているか否かということもすぐに確認できた。

授業に参加する態度としては、全般的にもう少し努力して熱心に講義を聴く姿勢が必要である。こうしたことは、受講生の自己に対するアンケート結果にも表れている。やはり同じクラブに所属していると授業の最中でも相談したりすることが多くなるのではないかと考えられる。ただし小テストの最中は静かに取り組む姿勢が見られた。授業の満足度としては、平均値より低い結果が出ているが、当然ながら授業中の態度

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

大学の初年次で再度国語の基礎的な学習をすることにより、2年次以降の学習等において役立つ能力を身につけることが大切である。国語力といった基本的な学力養成を提供する授業については、リメディアル教育で対応する方法とともに、授業に対する徹しい取り組みの自覚を促す方法を模索する必要があると考える。授業方法としては、従来どおりの方法で問題はないと思う。